

# 淡水確保に伴う処理途上水の仮設移送について

2022年12月22日

---

**TEPCO**

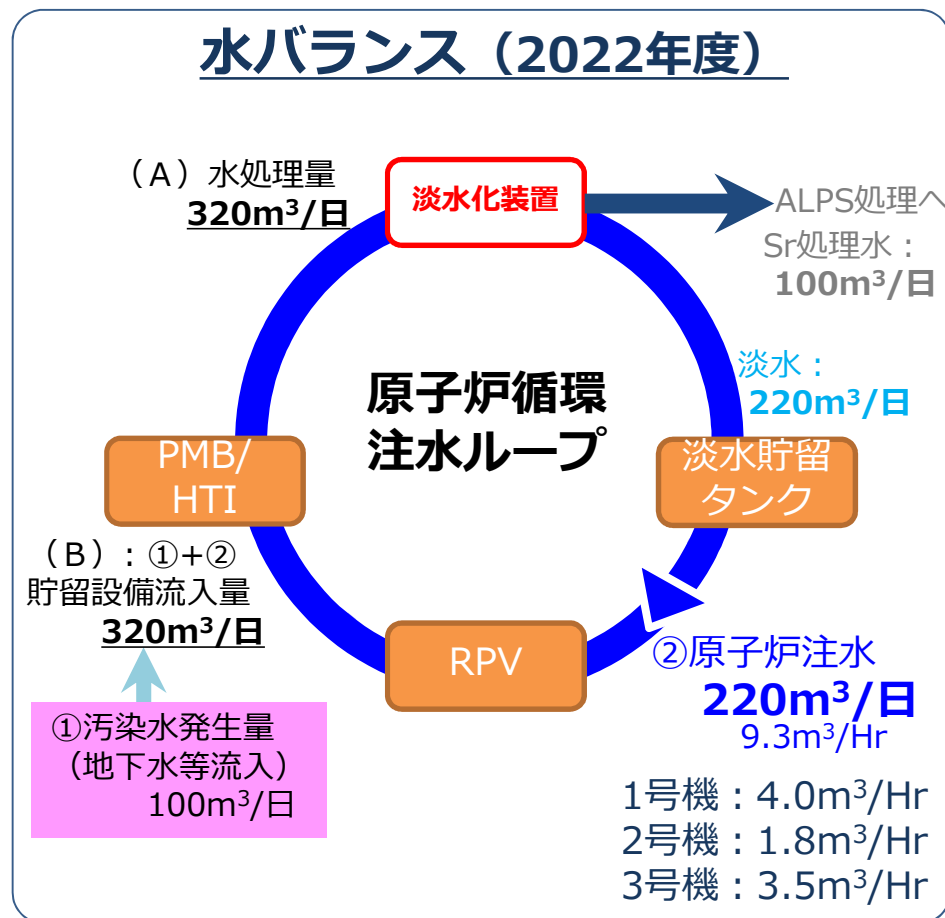
東京電力ホールディングス株式会社

## ■ <概要>

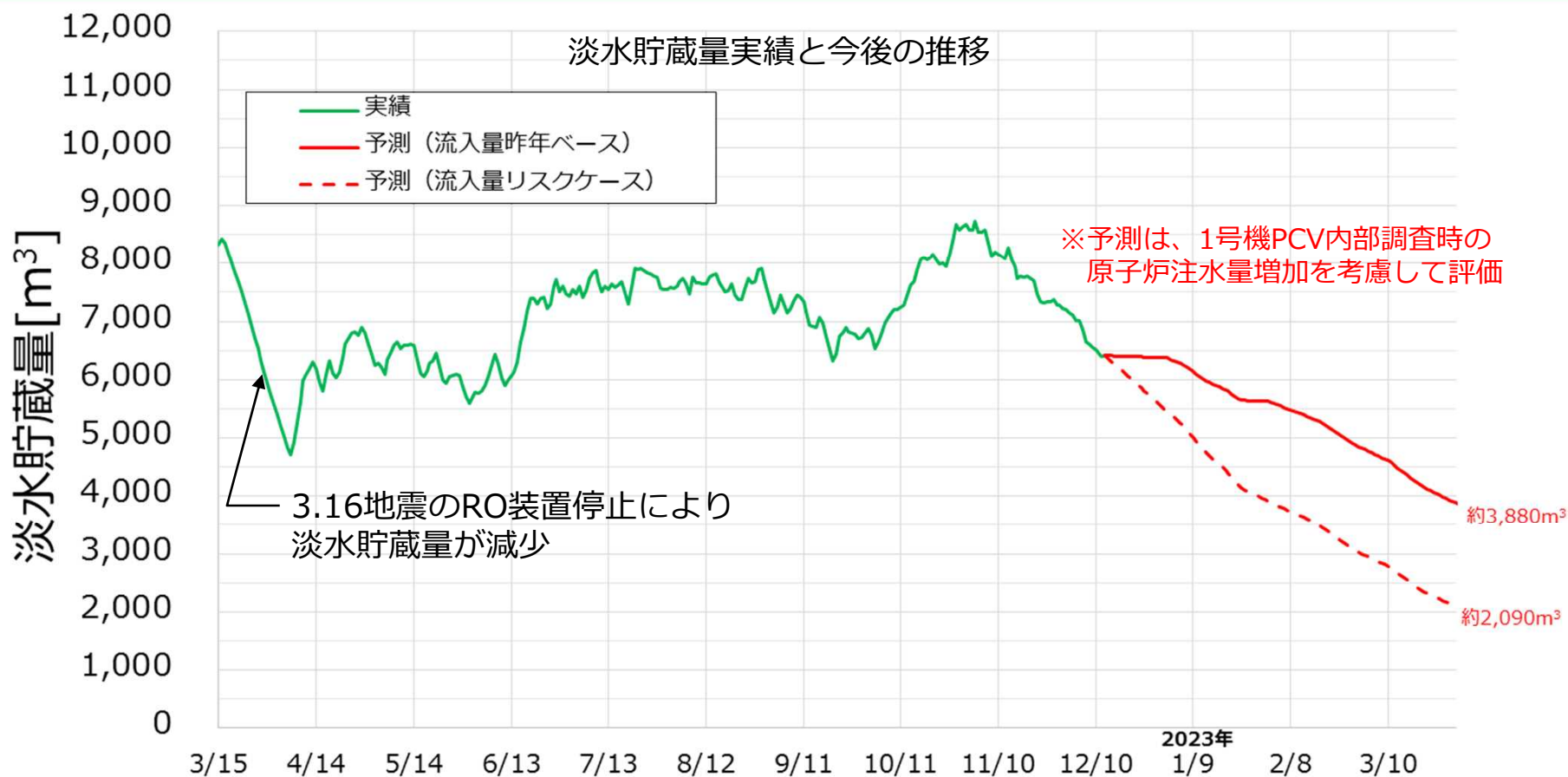
- 汚染水対策の進捗により、今年度の汚染水発生量が非常に抑制できている状況。  
(台風などの集中的な降雨が少ないことも影響している可能性有)
- 一方で、汚染水発生量の減少に伴い、原子炉注水に用いる淡水の精製量が少なくなり、33.5m盤の淡水貯留タンクの貯留量が例年と比較して少ない状況となっている。
- 併せて、12月上旬から開始している「1号機PCV内部調査」において、必要に応じ原子炉注水流量を増加させる操作を実施しており、淡水貯留タンクの貯留量減少の要因となっている。

## ■ <今回の報告事項>

- 「1号機PCV内部調査」の実施に万全を期すため、また強い地震後の「PCVの水位低下事象」時の炉注水増加への備えとして、[ALPS処理済水タンクに貯留している「処理途上水」の一部を廃液供給タンクへ仮設移送し、RO処理することで淡水貯留タンク貯留量を確保する。](#) (2023年2月頃から実施予定)
- なお、原子炉注水には精製した淡水以外にも「ろ過水」を原子炉注水に用いる(実施計画記載)ことが出来、そのための設備も備えているが、ALPS処理済水タンク容量への影響を考慮している。
- 本件の実施により、移送した処理途上水の一部にALPSでの処理を実施することとなり、今後二次処理の対象の「処理途上水」の減少にも寄与する。



- 原子炉注水用の水は、「汚染水発生量（地下水等流入量）を含む建屋からの移送水に対し、RO処理して一部を淡水に精製する」ことで確保している。
- 今回、処理途上水を淡水化装置に移送することで、淡水精製量を増やすことを計画している。



地下水流入量 昨年ベース (想定)

	12月	1月	2月	3月
平均 68m <sup>3</sup> /日	101	68	36	28

地下水流入量 リスクケース (想定)

	12月	1月	2月	3月
平均 30m <sup>3</sup> /日	30	30	30	30

### 3. 淡水水源確保策：ALPS処理途上水のRO処理設備への移送

- 淡水水源確保策として、処理途上水（K1・H1エリア）を淡水化装置（RO3）入口水タンク（廃液供給タンク）へ移送して淡水精製することを計画中
- K1・H1エリア～J2エリアまでは、本設移送配管を使用。各エリア堰内およびJ2～淡水化装置入口水タンクまで（約200m弱）は、当面仮設ホースを使用。

